

第1回黒部川水系流域委員会 議事要旨

【開催概要】

■開催日時：令和3年5月11日（火） 10時～12時

■開催場所：ゴルフアート 富山

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者の紹介
4. 設立趣意、規約
5. 委員長の選出
6. 議事
 - (1) 流域委員会の進め方
 - (2) 黒部川水系河川整備計画の点検（進捗状況等）
 - (3) 最近の動き
7. 閉会

【議事結果】

設立趣意、規約

- ・設立趣意、規約が了承された。

委員長の選出

- ・委員長には福岡委員が選出され、委員長代行には角委員が指名された。

議事

- (1) 流域委員会の進め方（資料3）

[委員長]

事業再評価については事業評価監視委員会に代えて流域委員会にて審議するのか。
流域委員会は継続性があるものと解釈してよいか。

[事務局]

公共事業の再評価実施要領では、流域委員会が設置されている場合には、事業評価監視委員会に代えて当該委員会にて審議することと明記されている。

流域委員会の委員の任期はあるが、流域委員会単体としては継続していく。

- (2) 黒部川水系河川整備計画の点検（進捗状況等）（資料4）

[委員A]

計画断面堤防の割合が97%と高い一方、（現行の整備計画にある）急流河川対策が

終わっても堤防抵抗力評価の低い場所が4割を占めている理由如何。

[事務局]

堤防の整備率(97%)は堤防の幅・高さが確保されていることを示しているが、侵食の安全性まで含んだ数字ではない。現行の整備計画の急流河川対策は、侵食に対する堤防抵抗力評価及び背後の重要度を勘案し、具体の整備箇所として位置付けている。(現行の整備計画での)整備が完了しても残る4割の箇所についても対策が必要と認識している。

[委員A]

上流部と河道との連携について、ダム、河川といった個別ではなく、土砂としてのつながりをもっと丁寧に説明する必要があるのではないか。

[事務局]

水と土砂の移動というものを川の中でどのように理解していくか、その上での河道管理、低水路管理をどうしていくかというところは、今回の流域委員会での点検を行う上での重要な点だと理解している。事務局としてもそれが議論できるような資料作りに努める。

[委員B]

急流河川対策と環境対策はwin-winの関係で実施されることが望ましいと考えられるが、これまでの整備状況はどうか。

[事務局]

治水対策については環境に配慮しながら行っており、また場所によっては治水と環境一体で効果を出していくという取り組みを行っている。

[委員長]

黒部川は土砂が多い川であるため、環境問題、治水問題を一体で考えるべき。

[委員C]

樹木繁茂が近年加速している。今後の整備計画では、樹木伐採のウェイトが大きくなるが、河道との関係にポイントをおいた計画が重要になってくると考えている。

[事務局]

近年の大規模水害を踏まえ、樹木伐採を精力的に実施している。樹木伐採や再繁茂対策、礫河原の維持を含めた低水路管理は、洪水、環境、生息場所の管理の上でも重要と認識している。

[委員D]

やすらぎ水路でアユ、ウグイ以外にどのような魚種が確認されているのか。

[事務局]

ヤマメなどが確認されているが、具体的な情報について次回提示させていただく。

[委員 E]

資料にある取り組み以外に河川の砂利を海岸へ養浜するというような海への土砂の供給を人為的にやっていることはあるか。

[事務局]

平成 20 年の高波災害を受け、高波対策の方を先行して実施していたため、(資料以外の取り組みは) 実施していない。離岸堤、副離岸堤の整備が進んできたため、近年試験的な養浜を始めた。

[委員 E]

川の中の土砂の量は、増減はどうか。

[事務局]

河床変動の具体的な状況について、次回お示しさせていただく。

[委員長]

山から海岸まで土砂の問題も含めて総合的に見ていく必要がある。

[委員 F]

河道は、治水面で堤防に局所的な外力が働かないように安定させることが大事だが、ある幅で下流に洪水と土砂を送り込むという川を動的にどう作っていくのかというところが大事なミッションになっている。樹林化の抑制や海岸への土砂移動、河道内の湧水には、流路についてどう適度な移動性を確保するのが大事。

[委員 G]

魚が隠れる場所としてブロックを整備しているが、土砂で埋まってしまう事例もあるため、それをどうやって維持していくのかを考えて施工すべき。

[委員 H]

企業活動を行う上で気候変動によるリスク管理も非常に重要となってきた。黒部川流域にある企業に適切な情報を公開して安全を守っていただきたい。

(3) 最近の動き (資料 5-1、5-2、6-1、6-2)

[委員長]

最近の動きについて説明があったが、その位置づけを説明していただきたい。

[事務局]

第 2 回委員会では (河川整備に関する) 状況の変化や社会経済情勢の変化等に係る点検内容について議論の予定であり、その参考として、流域治水プロジェクト等の内

容を情報提供した。

[委員 A]

地域の意向も踏まえて進められている取り組みは点検の資料に反映されるのか。

[事務局]

第2回委員会において、地域の意向の反映状況を含めてご提示させていただく。

[委員 G]

人工産卵床は、急流河川である黒部川では水と一緒に流れてくる土砂の影響を考慮して適正なのか検討する必要がある。

[委員 I]

農業用の取水をしている愛本堰堤は、流下の妨げや下流の洗掘問題などがあるが、今回の整備計画の点検で愛本堰堤について議論するのか。

[事務局]

気候変動での降雨の変化がある中で、愛本堰堤だけでなく下流の河川内の構造物が治水上安全なのかどうかも含め点検していきたい。

[委員 F]

計画との近年の雨量と流量について、ダムや河道の整備状況や雨の時間的、空間的な情報を整理する必要がある。

[委員 D]

やすらぎ水路について場所毎の特徴を活かした整備ができれば黒部川の魅力がもっと伝わるのではないか。

[事務局]

次回以降でやすらぎ水路が下流と上流でどのような特徴の違いがあるか等、議論できる資料を用意する。

[委員長]

流域治水プロジェクトにあるように、大規模な水害によって氾濫することを含めて考えていかなければならない時代となった。また、流域全体が一体的に、市民も含めて、治水事業や環境事業と、その先のまちづくりとどう関連させていくのかという問題に河川行政が関わらざるを得ない。黒部川ではこの問題について、今回の河川整備計画の中ではどういうふうを考えていくかということをよく議論して、明確な考え方を示していく必要がある。

[事務局]

氾濫をできるだけ防ぐための対策としての河川整備のあり方に加え、霞堤の扱い、

洪水と一緒に流れてくる土砂への対応、既存洪水調節施設の有効活用などが流域治水プロジェクトでも課題であった。これら流域治水プロジェクトで議論した視点が整備計画での点検でも反映されるものと事務局では考えている。

[委員長]

気候変動で外力が大きくなり溢れることが避けて通れない川が多くなっているが、黒部川のようにそこまでいかなくても（侵食によって）堤防が消える心配があるということをもっと深刻に考えて、この川独特の問題としてしっかりやらなければならない。

[委員 F]

気候変動により整備計画を上回る外力が発生することが予測され、霞堤や利水ダムをどのように最大限活用するのか、かつ黒部川では土砂と一緒に扱わなければいけないため、それを河川整備計画の中でどうみるのかということが重要である。事務局には議論できるような準備をしていただきたい。